

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	宜野湾市児童発達支援事業所 愛育園			
○保護者評価実施期間	令和8年3月13日		～	令和8年4月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	32名	(回答者数)	28名
○従業者評価実施期間	令和8年4月20日		～	令和8年5月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年5月12日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子で安心して通うことができる支援環境	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で通うことで、子どもが安心して活動に参加できる環境になっている。 ・保護者がそばにいる安心感の中で、子どもの興味・関心や気持ちに寄り添いながら支援を行い、他者との関わりや活動を楽しめるよう取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者が安心して過ごせる環境づくりを継続し、一人ひとりの発達段階に寄り添った支援の充実を図っていく。
2	保護者との信頼関係を大切にしたい支援体制	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の保育でのやり取りを通して、保護者の悩みや困り感に寄り添いながら支援を行っている。 ・母の会や家族参加行事、卒園児保護者との交流会を実施し、保護者同士のつながりづくりを大切にしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の情報共有や相談支援を継続しながら、保護者同士の交流や学びの機会を充実させていく。
3	専門職を含めた多職種による支援体制	<ul style="list-style-type: none"> 保育士、児童指導員、作業療法士、言語聴覚士、心理士等の専門職が連携し、情報共有を行いながら、子どもひとり一人に応じた支援につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職との連携や研修参加を継続し、職員全体の専門性向上と支援の質の向上につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	非常時対応や安全面に関する保護者の周知が十分ではない	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練や各種マニュアルの整備は行っているが、保護者へ具体的に伝える機会が少なく、十分な周知につなげている。 	<ul style="list-style-type: none"> 園だよりや掲示、LINE等を活用し、訓練実施や安全計画、各種マニュアルについて分かりやすく周知していく。
2	情報発信や活動内容の周知にばらつきがある	<ul style="list-style-type: none"> 行事予定等の発信は行っているが、活動内容や自己評価結果等について十分に伝えきれていない部分がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 園だよりや掲示、HP、LINE等を活用し、活動の様子や取り組み内容を継続的に発信できるよう工夫していく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		児童発達支援事業所 愛育園		公表日		令和8年5月29日			
		利用児童数		32名		回収数		28名	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	28				○広さやスペースなど確保されていて本人がやりたいことが十分に担保されています。 ○いつも楽しく学びながら遊んで感謝しています。			
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	26	1		1	○配置数は充実していて他の児童に手をとられていたり、課題が進行中などでも他の職員さんがカバーしてくれるので本人の困りごとやトラブルにすぐフォローしてもらえています。			
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	27	1			○認識しやすく、一目でわかるのでカレンダーを通しての今日の曜日や数字へのアプローチ、掲示物をおして出来事の把握や職員さんの名前、顔の認識などに繋がっています。理解のしやすさで棚への荷物置きやトイレ自立など身辺整理などに繋がっています。			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	27			1				
適切 な支 援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等にに応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	25	2		1	○それぞれの特性にあった支援をしており、また、日により本人の変わる気持ちや情緒にもケースバイケースで対応してもらっています。			
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	28							
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	28					○丁寧なヒヤリングとそれにとまなう支援が設定されます。		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	27				1			
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	26	2						
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	27	1				○戸外活動、室内の活動、工作やクッキングなど多岐です。		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	20	2	4	2				
保 護 者 へ の	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	27			1				
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	27	1						
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	26	1			1	○自分自身ではたどり着けないような情報や内容や取り組みなど教えてもらえます。		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	27	1				○質問しやすい雰囲気をつくってくださっており、また子どもに何かしらあればその様子も伝えてくれて相互のコミュニケーションがとてもりやすいです		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	28							
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	26	1			1			

説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	23	5				
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	27			1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	27				1	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	21	3		4	○行事予定のみ発信があります	○親子通園では毎月園だよりの発行をし、グループ療育では毎回のプログラムをお知らせしています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	28					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18	3		7	○保護者へはよくわかりませんが、子どもへは避難訓練や危機管理を実施してくれています	○避難訓練等は実施しておりますが、各種マニュアルや取り組みについて保護者の方へ十分にお伝えできていない部分があると感じております。今後は、より分かりやすくお知らせできるよう工夫していきたいと思います。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19	3		6		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	23	2		3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	22	4		2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	28				○行くことにより受け止めてもらえる、受け入れてもらえると感じるようです。	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	27	1			○療育の前日から楽しみにしています。休みの日も「愛育園に行きたーい！」と言っています。 ○通うのを軸に幼稚園のスケジュールを見ているふしがあります。よりどころの一面もあるかもしれません	
	29	事業所の支援に満足していますか。	28				○母親の困り事の相談にのっていただき、とても助かっています。愛育園がなかったら、ひとりで困り果てていたかもしれません。 ○いつも明るく保護者や子ども達に接して下さり、本当に感謝致します。あたたかな声かけや沢山の支援、手遊びやダンス、本当に楽しかったです。通所を通して、とても成長しました。ありがとうございました。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援事業所 愛育園		公表日	令和8年5月29日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		活動内容に合わせて広い場所を使ったり、大型遊具の配置を調整するなど工夫している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		利用定員や子どもの状況に応じた職員配置を行っている。また、基準配置に加えて職員を配置し、一人ひとりに丁寧に関わりながら療育支援や保護者対応を行える体制づくりを心がけている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		室内やトイレの段差をなくすなど、障がい特性に配慮したバリアフリー化を行い、環境を整えている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	2	日々の清掃や玩具の消毒、換気を徹底し、アレルギーにも配慮しながら清潔で快適に過ごせる環境づくりに努めている。また、必要に応じて修繕や環境調整を行い、安心して過ごせるよう工夫している。	トイレの雨漏りについて、より安全で快適な環境となるよう修繕を進めていく必要がある。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		療育室とは別に、言語指導や発達相談などに使用できる個別スペースを確保し、安心して過ごせる環境として活用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		年2回の自己評価を実施し、日々の振り返りや月1回の職務会を通して職員間で情報共有を行い、業務改善につなげている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		保護者向け評価表を通して意向を把握し、課題がある場合は職員間で話し合いを行いながら業務改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		毎朝のミーティングや定期的な職務会を実施し、必要に応じて話し合いの場を設けながら、職員の意見を業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		外部研修や冲通連の研修へ定期的に参加できる機会を設けている。また、職員が希望する研修にも参加できるよう体制を整えている。	
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		児童発達支援管理責任者だけでなく、支援に関わる職員間で情報交換や見直しを行いながら作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6	1		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		個別の状況や年齢、目的に応じた活動プログラムを作成している。また、職務会で話し合いを行いながら、職員間で共有しチームで立案している。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		活動内容に偏りが出ないように計画し、個々の状況や曜日ごとのバランスを考慮しながら、子どもの様子に合わせて内容を工夫・発展させている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		子どもの状況に応じて、言語指導や発達相談などの個別支援と、年齢別の小集団活動を組み合わせながら支援を行っている。また、集団活動への参加が難しい場合は個別で対応するなど、状況に応じた支援に取り組んでいる。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		毎朝のミーティングや職務会、グループ指導の前に打ち合わせを行い、支援内容や役割分担、スケジュールの確認を徹底し支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		子どもの様子や保護者からの相談内容、出来るようになったことや気になったことなどを職員間で共有し、支援の振り返りを行っている。	日々情報共有を行っているが、業務とのバランスを考慮しながら、出席した子ども全員について簡潔に共有できる体制づくりを検討していく必要がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			翌日までに記録しているが、今後はより集中して記録作成に取り組める環境整備を検討していく必要がある。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		会議前に職員間で情報交換を行い、子どもの状況を把握したうえで参画している。また、会議後には内容を職員間で共有し、支援に生かしている。
25		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		市の教育機関等と連携し、就学説明会や未就学児特別支援説明会を実施するなど、関係機関と連携した支援体制を整えている。	
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6	1	就学時には園で作成したアセスメントシートを活用し、就学先へ支援内容を共有できるようにしている。	
28		(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29		質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30		(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31		(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	3	4		必要時に助言等を受けられるよう、連携強化を検討していく。
32		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7		近隣園の園庭開放、当事業所の夏まつり等の行事を通して、地域の子どもたちと交流する機会を設けている。	
33		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
34		家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1	心理士・言語聴覚士・作業療法士等の専門職による勉強会を開催している。また、外部で行われるペアレントプログラムについてはお知らせを掲示するなど、情報提供を行っている。	

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			契約時やアセスメントシートを活用し、子どもの現在の様子を把握するとともに、子どもや家族の意向を確認する機会を設けている。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			発達相談時に心理士との面談を実施しているほか、必要に応じて個別相談にも対応できるような職員体制を整えている。また、相談内容に応じて心理士につなげるなど、必要に応じた相談対応や支援につなげている。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7			月2回の母の会を開催し、保護者同士が交流できる機会を設けている。また、卒園児保護者との交流会も実施し、保護者同士のつながりにつなげている。 夏まつり・運動会・日曜参観等の家族参加型行事を実施し、きょうだい児も参加できるような工夫している。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	7			園だよりの発行やLINEを活用し、活動内容や行事予定、グループ前の案内等を必要に応じて保護者へ発信している。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7			近隣保育園と交流を行い、園庭開放の活用や夏まつりへの招待を通して、地域との交流やつながりづくりを行っている。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6	1		事業所で訓練や研修に参加し、緊急時や感染症等への対応について職員間で共有を行っている。 各種マニュアルは策定しているが、今後は保護者への周知方法について検討していく必要がある。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6	1		保護者からの聞き取りや児童票を通して、状況確認を徹底している。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1		
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			事例が発生した際には記録を行い、全職員で共有するとともに、再発防止に向けた検討や話し合いを徹底している。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			虐待防止に関する研修へ参加し、職員間で情報共有を行うことで、適切な対応や意識向上につなげている。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	5	2		現在、身体拘束を必要とする児童は在籍していないが、必要時には組織的に検討を行い、保護者への説明・同意の上で適切に対応できる体制を整えていく。	